

「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」事業

事業のポイント

■ 地域社会の様々な分野で活躍し、教養教育に造詣の深い社会人をボランティアとして迎え、徳島大学全学共通教育の少人数・体験型授業「共創型学習」および教養科目の授業で、学生・社会人・教員が学び合う場「学びのコミュニティ」を構成する。学び合う地域社会を大学の中に構築し、大学を中心とした知の循環型社会の構築をめざすものである。

事業代表者・連絡先

齊藤 隆仁 (大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・准教授)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel / fax: 088-656-7232
e-mail: saito@ias.tokushima-u.ac.jp

1. 事業の目的

徳島大学は、「人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門能力と自立した未来社会の諸問題に立ち向かう、進取の気風を身につけた人材の育成に努める」ことを教育理念としている。この理念の実現には、その礎となる初年次教育・教養教育の充実が肝要であり、全学共通教育では少人数による体験型学習に特化した「社会性形成科目群」を設置した。設置の過程で、地域社会人が参加する授業を設け、ともに学びあうことにより人間力や社会性の形成、さらには進取の気風の涵養に有用であることなどが明らかになった。

そこで、地域社会の様々な分野で活躍し、大学教育・教養教育に造詣の深い本学卒業生を含む社会人をボランティアとして広く迎え入れ、学生・社会人・教員が互いに学び合う場としての「学びのコミュニティ」を構成する次の取組を実施している。

- ① 少人数・体験型の社会性形成科目群と教養科目の授業に「学びのコミュニティ」を構成する。
- ② 相互授業参観等による学び合いの機会を設ける
- ③ 「学びのコミュニティ」による活動を、PDCAサイクルに組み込み、教育改善の一助とする。

学生は自主的学習態度を育むとともに、学士力を高め、人間力や社会性を形成することが期待される。社会人は、学生の教育に参画することにより、生涯学習の動機づけを図りながら、学びを深める。このように、「学び合う地域社会」を大学の中に構築することで、その流れはやがて他大学、そして地域へと知の循環が広がっていく。この取組は、地域の特色を生かした教養教育改善の一モデルとして、その成果を社会に発信することにより、大学を中心とした知の循環型社会の構築をめざすものである。

2. 事業の取組状況

取組対象授業は平成20年度の9授業から平成23年度には22授業に拡大し、現在では年間のべ700名程度の学生が取組授業を受講している。この事業取組により、新規開発した教育プログラムとしては、IT活用による遠隔コミュニケーション、語学を通して学ぶ教養などがある。また地域社会への貢献としては、年に1～2回の地域に開かれた教養教育市民フォーラムを開催している。

本事業は「質の高い大学教育推進プログラム」(文部科学省、平成20～22年度)に採択された。全学共通教育

センターに学びのコミュニティ部会を設けて実施体制を整え、継続して取り組みを実施している。

3. 事業実施による成果と今後の展開

取組授業の教育効果の検証として授業評価アンケートを実施し、大学にふさわしい授業、社会人参加は授業の充実や改善に役立つ、授業に満足、異なる視点の存在に気づく、世代を超えて共に学びあうことの意義の理解、の項目で評価が高く、本事業が学士力における知識・理解および態度・志向性の涵養を目指すことを学生が受け止めて受講していたことを反映している。また、授業の満足度において本取り組みは他の授業に比して高い。

事業を通じて社会人参加の共創型学習や教養科目の学習効果に対する研究を行うことで、教育プログラムの作成と効果検証への道が開かれた。共創型学習と生涯学習の融合による学習効果に関する理論付けをおこなうことで、社会人ボランティアの教育に関わる意識の高揚が図られ、社会人と協力しながら授業が発展させるための方策を探ることが容易になった。これまでの取り組みにおいては地域社会人だけでなく、ITを活用した遠隔授業を通じた世界各地の教室と持続可能な社会についてのグループディスカッションの場を授業の中に取り入れることが可能となった。こうした内容の充実を今後進めていくことが益々重要である。

